

緑が丘老人クラブ「緑会」とのタウンミーティング

日 時 令和5年12月16日（土）10時00分～11時00分

会 場 緑が丘会館 大会議室

参加人数 52名

1. 開 会

2. 緑会会長ご挨拶

3. 井出市長市政報告

○令和5年度予算編成方針

- ・7つの事業・施策、5つの方針・目的があり、全て移住・定住の促進につなげるということで、私が市長になってからずっとこの方針でやっている。
- ・各自治体の勢いを示す数値はたくさんあるが、私は人口だと思っている。人口が増えていけば、その自治体というのは勢いがあるんじゃないかと思っている。
- ・令和5年度の予算は約268億円。おかげさまで税収が伸びている。令和元年に初めて税収が90億円を超え、昨年、コロナ禍にもかかわらず90億9,200万円と過去最高を更新した。これは企業誘致が好調だということ、地元の産業が好調なことから税収が伸びている。
- ・TOPPANという会社が能美市に進出を表明され、加賀東芝もさらに投資され能美市にとっては税収が増えていく要素がある。
- ・人口はどうなっているかというと、人口というのは2つ要素があって、自然動態と社会動態があります。お亡くなりになる人よりも生まれてくる赤ちゃんの人数が多いと自然増。ところが日本は今自然減です。特にコロナの感染が広がっていたときに、生まれてくる赤ちゃんの人数が大幅に減り能美市も今残念ながら自然減。もう一つは、引っ越して行く人よりも引っ越してくる人が多いと社会増。能美市は今社会増だが自然減が最近大幅に増えていて、残念ながら今能美市はちょっと人口が減ってきている。何とか自然増にして、社会増をもっと伸ばそうといろんなことをやっている。
- ・昨年大雨のことを少し触れたい。昨年の8月4日、1時間当たり86ミリという過去経

験したことのない雨が降った。それから、七ツ滝、遣水観音、蟹淵で土石流もあった。蟹淵はまだ全く手がつけられない状態で、今後どうやっていくか悩んでいるそんな状況。

・市内には、鍋谷川、西川、熊田川という川が流れているが、この沿川だけではなく市内全域で溢水した。結果的に、床上・床下浸水が約180件、農地に水が入ったのは20ヘクタール、土砂が入ったのは12ヘクタール、イノシシの柵が2キロにわたって壊れ、川をせき止めて水位を上げて、その上げた水を田んぼや畑に流していく頭首工という物があるが、鍋谷川にあった頭首工が全部壊された。

・これらの状況も踏まえ、令和5年度は災害対策をしっかりしていく、それから市民力、地域力を強化していこうとやっている。市民力、地域力というのは、市民が自分たちのまちのために一生懸命やる。それが地域の力になって様々なことを進めていくことを地域力、市民力と言っているが、これが最近すごく弱くなっている。

・例えば壮年団に登録されている人数が大幅に減ってきて、最近では壮年団がなくなる町も出てきている。婦人会、女性会も同じ状況になっている。

・市の知名度・認知度は、私が東京の国土交通省に行って名刺を出すと、『『のうみ』市さんですね』と言われ、「のみ」と読んでもらえない。知名度、認知度がまだまだ低い。

・北陸新幹線が来年の3月16日に開業して大都市圏からたくさんお客さんが来られると思う。金沢はブランドになっているが、能美市は「それはどこ？」となる。だから、この能美市という地名をいかに広めていくかが大変重要だと思っている。

・自然動態の増進というのは、たくさん赤ちゃんを産んでもらう。それから、どんどん長生きしてもらおうということ。GXというのはカーボンニュートラルのこと。後ほど詳しく説明する。

○災害・事故対策

・災害の事後対策では、川の幅を広げたり、堆積土砂を取ったりして、二度とあの様な災害が起きないようにいろんな対策をやっている。大きな災害があると体育館に避難されるケースがすごく多い。今まで体育館には冷暖房をつけていなかったが、避難された場合に暑いとそこで二次災害が起きたり、寒いとそこにずっと留まれないことから、市内3つの体育館に冷暖房をつけた。

・我々行政だけではなかなか市民の皆さんの安心・安全を担保できないことから、誘致企業さんと、大きな災害があった場合に避難所として使わせてもらう協定を結んだり、その

会社が持っていしゃるショベルカーやダンプ等を貸してもらえ協定を結び始めている。

・自然災害だけでなく、交通事故対策として、ゾーン30という標識の様なものを作って、安心・安全を促している。今は福岡小学校エリアと宮竹小学校エリアがこのゾーン30プラスという指定をしている。どういうことかという、その小学校の側が抜け道というか、朝の渋滞時等に小学校の側の道をスピードを出して走る車がすごく多いことから、いろんなポールを立てたり、標識をたくさん作ったりして30キロ以上出せないようにしている。

・消防ではいろんな資機材を充実させている。災害時に活躍する高性能のドローンや、はしご車等を整備して、市民の安全・安心を守っていく。

・防災ガイドブックを皆さんご覧になっていると思うが、昨年指定避難所の周囲が水につかったことから、もう一回避難所をどうするか、災害時にどう逃げていってもらうかが分かりやすいようガイドブックを今作り直している。

・個別避難計画の作成も進めている。昨年の8月4日の大雨は夏休みだったので、学校からの子どもたちの避難は考えなくてよかった。平日であれば子どもたちは学校にいて、働いている世代は仕事に行って金沢や小松にいるかもしれない。高齢者で独り住まいの方がいたとして、お一人だけそこに残って、大きな災害が起きたときどこに逃げればいいのか。誰が連れていってくれるのか、ということが明らかになっていない。大きな地震が起きたときには誰が助けてくれるのか、大きな水がついたときには誰が家に来てくれるのか、というようなことをお一人お一人しっかりと決めていこうとやり始めている。市内で災害が起きる可能性が高いところから順番に、このような個別避難計画をつくり始めている。ぜひ皆さんも、能美市からそういった案内が来る前に、本当に災害あったときに、自分はどこに逃げるのか、誰と一緒に逃げるのか、誰が助けてくれるのかをはっきり決めておいていただければと思っている。

・能美市公式LINEを開始した。能美市から避難指示が出る場合には、防災行政無線やホームページ、テレビやケーブルテレビ等でご案内しているが、例えば防災行政無線はその場所にいなかったら聞き漏らしたりする。それから、大量の情報を流すと音声では全部把握できないことから、文字で流してほしいという声があり、LINEで流すようにした。災害情報だけではなく、能美市のいろんなイベント情報や、市のホームページにすぐアクセスできるので本当に便利。皆さん、今はほとんどの方がスマートフォンとか携帯を持っていしゃると思うので、登録をしていただければと思う。

・そのほかの災害対策として、公共施設が古くなってきているので直したりしている。市内に11の小中学校があるが、古いのでどういう順番でどこを直そうか検討している。

・今能美市内に約730件の空き家がある。空き家バンクと言って、その空き家を活用したい方が登録する制度があるが、実際登録されている件数は10件ぐらいしかない。皆さんその空き家のまま持っていたいのか、将来的に何か使う可能性があるのか。そんなことで空き家はすごく増えているが、実際に利活用したいという件数はまだ10件ぐらいという状態。

・案内看板の見直しも始めている。市内に能美市が管理する案内看板は大体2,500ぐらいあるが、まだ「寺井駅」と書いてあったり、国道8号線が掲載されていなかったり、昔の施設名のまま表示されているところがあるので、これを順次新しくしていく。ただ、皆さん、目的地に行くのに、昔は地図を広げて案内看板を見ながら行っていたが、今はそんなことしない。ほとんど車等のナビを利用する、案内看板の在り方も変わっているだろうと見直しを始めている。

○市民力・地域力の強化

・祭礼やイベントをたくさん開催していくことが大切だと思っている。人が集まることでいろんな話ができ、もし何か災害などがあっても、皆さんで助けに行きましょうという気持ちもイベントなどを通して生まれていくんじゃないかと思っています、祭礼やイベントを市としてもしっかりとサポートしていこうと考えている。

・居場所づくりも必要で、すごく大切だと思っている。オアシスつるしんのような多世代間交流の場所はなかなかない。市としてもいろんなところで、そんな場所をつくっていけるようサポートしていきたいと思っている。

・今年は加賀立国・能美誕生1200年という記念すべき年で、いろんなイベントを開催した。いしかわ百万石文化祭も石川県中でいろいろとやっていたが、おかげさまで大盛況で終わることができた。

○知名度・認知度の向上

・いろいろなことをやっているが、能美市出身で世界的に一番有名な人というとはやはり松井秀喜さんだろうと、松井さんに能美市のPRをしてもらっている。

・サンリオという会社があり、そこにはたくさんのいろんなキャラクターがいる。能美市は今、サンリオの1番人気の「シナモロール」というキャラクターを応援大使として迎えて

いる。

・ギネスに挑戦ということで、折り紙を折ってもらいモニュメントのようにして飾ろうと計画している。この世界記録が今1万6,000枚くらい、能美市は2万243枚を目指している。皆さんが折った折り紙が展示のどこかに入って、それが世界記録になるのでぜひ協力してほしい。何で目標が2万243枚かというと、2024年3月16日、新幹線開業の日にあわせ設定した。

・能美市のPR動画を作成したが、その動画で松井秀喜さんが初めてアフレコしてくれた。初めてということで注目されて、全国ニュースに何回も取り上げられた。イオンシネマ白山で映画が上映される前にも流していて、すごい注目を浴びた。東京のFMラジオに私が出演して市のPRをしたり、東京モノレールに松井さんのポスターを貼り出したり、小松空港に松井さんの看板を置いたりしている。

・企業誘致が好調で、福島グランパークも間もなく埋まる予定。辰口のフラワーハウス跡地は、道の駅機能を持った場所にしたいと思っている。新幹線開業に間に合わせたかったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、なかなか進出いただける企業が見つからず、現在の状態になっている。一日も早く道の駅機能を持ったような場所にしたいと思っている。辰口丘陵公園やいしかわ動物園が近く家族連れがすごく通る良い場所だと思っている。

○自然動態の増進

・自然動態の増進では、健康寿命の延伸に取り組んでいる。例えば、皆さんに健康診断に行ってくださいとPRしている。

・いきいきプラチナプランというのがあり、高齢者の皆さんにどんな生活をしていってもらうか、あるいはどんなことを注意していってもらうかというようなことをつくるそんな計画書です。これまではシルバープランという名称だった。65歳以上が対象だが、65歳はまだ現役でばりばりやっていたらしゃる。そんな人たちにシルバーというのもおかしいだろうと、プラチナに変えた。プラチナというのは、色が変わらずずっと光っている。シルバー（銀）はくすむので、それじゃあ失礼だとプラチナに変えた。

・今までは65歳以上の人たちにどうやって健康を維持してもらったが、もっと活躍をしてもらおう、地域のため能美市のために働いてもらおうと今変えつつある。ぜひ皆さんも、こんなことがしたいとか、こんなことがあったらいいなと思うようなことがあれば、

おっしゃっていただければと思う。

・子宝に恵まれたい、子育てしたいということも応援している。最近の物価高、エネルギー高から一番お金がかかる子育て世代を応援したいと、給食費無償化をやり始めた。2学期から中学生、それから3学期から小学生の予定をしていて、来年度もできたらこれを継続できないか今考えている。

・保育園の民営化も進めている。これまで市内には15の公営の保育園があった。ただ、市民の中で幼児教育を受けさせたいというお声があり、公営ではできないカリキュラムを受けたいと市外の幼稚園に通っている人も結構あると聞いている。ぜひ市内でも学んでもらいたいという思いから、まず福島町の保育園が民営化となった。大変好評だったことから、今度湯野と緑が丘の保育園が民営化される。今の緑が丘保育園は少し入り組んだところがあるので、交通渋滞があったり、駐車場が少ないということもあり移転する。今いろいろ準備を初めていて、来年の4月から公営だった緑が丘保育園を私立の経営にし、2年後の4月から新しい保育園舎で学んでもらえるように今準備を進めている。

・北陸鉄道能美線の跡の健康ロード。桜がきれいであったり、見晴らしがいいのですごく多くの市民が歩いている。ところが、桜の根が隆起していたり、通学路にもなっているが街灯がなかったりしているのを整備する必要がある、今きれいにしていく。ただ、全長が16キロあるので、そう簡単にできないことから、3年間かけてやろうと考えていて2025年の完成を目指して整備を始めている。2025年がどんな年かというと、能美電が開通して100年、廃線になって45年、能美市制20周年という大変記念すべき年に合わせてやろうとしている。

・健康ロードの能美電の駅があった場所に看板があるが、その駅があったところの周辺にどんな施設があるかが分かるように看板も見直していこうと考えている。皆さんの中で、この道をこんな形で活用すればいいんじゃないか、駅があったところにこんなベンチがあったらいいんじゃないか、こんなものがあつたらいいんじゃないか、というそういったご意見があれば仰っていただければと思う。

○ゼロカーボンシティ

・2013年に排出した二酸化炭素を、2030年に半分にしましょう、2050年にはゼロにしましょうという計画。能美市だけがやっているのではなく、世界的に取り組んでいる。カーボンというのはCO₂のことですがそれをゼロにする、要は地球温暖化対策。温暖化によって

昨年のようなあんな大雨が降ったりもする。二酸化炭素、いわゆる温室効果ガスが大気中にだんだん増えてきていることから、異常な気象になって大雨が降ったり大雪が降ったりするだけでなく、農産物が育たなくなることがあったりして、我々の生活に大きく影響することから世界的に取り組んでいく流れになっている。

- ・例えばカーボンニュートラルガスというのを今能美市では使っている。普通のガスよりも少し値段が高い。その値段が高い分の費用を使って世界でいろんな木を植えている。また、農業の奨励をしている。実は石川県の19市町の中でタマネギの生産量は能美市がナンバーワン。能美市産のタマネギはすごくおいしくて、給食なんかにもたくさん使われている。

- ・P P Aモデルという、太陽光パネルを使って発電して電気を使おうということだが、電気というのは発電してすぐ使わないと駄目。冬場や夜は太陽光パネルを置いていても発電されないことから、昼間や夏に発電した分を電池にためておいて、夜や冬に使おうと計画している。そんなことを能美市でやろうと考えている。

- ・のみバス。停留所の場所やルートも何がベストか、見直しのたびに結構考えている。健康のため、それからCO₂の削減からもぜひのみバスに乗っていただければと思う。のみバスのデザインは結構かわいい。市内の8つの小学校で、小学生に能美市の自慢できるところを聞いてそれをデザインした。今8台走っているが全部デザインが違う。1台見るだけでも楽しい。ダイヤ、ルートも見直しをしているので、ぜひ乗ってみていただければと思う。

○インクルーシブシティ

- ・デジタルの力を使っているいろんなことをやろうとしている。能美スマートインクルーシブシティということをやっていて、インクルーシブというのは誰一人取り残さない、仲間外れにしないという言葉で、いわゆる地域共生社会。スマートというのはデジタルのこと。地域共生社会をデジタルの力を使って実現しようというのが能美スマートインクルーシブシティ。高齢者や障害をお持ちの方、子育て世代、お子さん、外国人も含めて、能美市に住む全ての皆さんが、自宅や保育園や公民館や地域で安心・安全に暮らしていってもらう。それから、利便性を高めていくというのがこのスマートインクルーシブシティ。いろんなことやっているが、今日は自宅と公民館で何をやろうとしているかを説明したい。

- ・医療介護情報連携システムについて。病院に入院していた人が家で過ごすことになった

とする。そうすると、かかりつけ医さんやケアマネさんや作業療法士さんが、この人が病院でどんな治療を受けていたか、どんな病気だったか、どんな薬を飲んでいるかを知りたいがカルテが別になっていて分からない。

・Aという内科医院に行った、その後Bという内科医院に行ったとするとカルテが別だから、どんな薬がお互いに知らない。それを能美市では電子カルテを全部同じにして共有していこうと考えている。そうすることにより、退院してきてもその人がどんな薬を飲んだかが全部分かる。

・独り暮らしの人が調子悪くなって、近所の人に救急車を呼んでもらったとする。救急隊はこの人がどんな薬を飲んでいるか、どんな病気にこれまでかかったかを把握して病院に連れていけなくちゃいけないが、本人が具合悪いので話せない。そういった時にもクラウドに情報を入れておいて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにしようと今やり始めようとしている。

・ただ、これは個人情報なのでそう簡単な話ではない。例えば自分が高血圧だとか糖尿病だということであれば、皆さんに知ってもらってもいいのかもしれないが、命に関わるような病気をして手術をしたということになると、ほかの人に知られたくないということもある。ですから、個人情報をどうやって守りながら実現していくかを今考えていて、まずは設備を更新することから始めている。

・見守りあんしんマップというものを紙ではもう始まっている。ところが、これは大体毎年10月とか11月に民生委員・児童委員さんに内容の確認をしてもらっている。1月に飲んでいる薬が増えたということになると、デジタルではないいわゆるアナログベースのあんしんマップには更新されない。なので、デジタル化して常に最新のデータに切り替えていこうと今考えている。

・認知症の人がいなくなったとすると、これまでは防災行政無線で、年の頃75歳ぐらいの白髪のおばあちゃん、紫色の服というようなことをお知らせしていたが、なかなかイメージが湧きにくい。それを事前に登録しておいて、いざと言う時にタブレットや携帯電話に画像で送ろう、これはもう始まっている。今、町会長さん町内会長さんや民生委員・児童委員の皆さんには、能美市ではタブレットを持ってもらっているので、そこに情報が行くようにしてあったり、認知症の人等がいなくなったときに探すのを協力しますと登録してくれている人のところにも情報が流れるようになっている。ぜひ皆さんには探す側で協力をしてもらえればと思う。

・IoT家電の活用も考えている。最近の空気清浄機は「今日は12月16日土曜日です。天気は雨です」、「ご飯食べたか」とか「おやすみなさい」とか喋る。センサーがついていて、部屋の中の空気を分析して「最近、寝るのが遅いようですが大丈夫ですか」とか「体調に異変はありませんか」と声をかけてくれる。将来的には、能美市から大雨洪水警報や避難指示が発令された時に、防災行政無線だけでなく空気清浄機からも喋るようにする。

・エアコンでは、例えば3日間スイッチを入れていないと「安否が確認できません」というようなことを、登録してある息子さん夫婦に伝える。こんなことを今考えている。まず市内の1人暮らし100世帯をモデルに試験をして、「これはいい」「いやいや、これはちょっと不便。もっとこうしたほうがいい」というような声を聞きながら進めていき、将来的にもっと皆さんに安全に暮らしていただこうと考えている。

・スマート新聞といって、今新聞は紙だがタブレット形の新聞で、見たい情報だけが出るようにして、スイッチが3日間ぐらい入らなかったら先程のエアコンのように、登録してあるところに伝えるようにする、そんなことを将来的にやりたいと考えている。

・公民館をもっと活用して、デジタル公民館にしたい。市内に約80の公民館があるが、Wi-Fi環境を整備した。そこで子どもたちがパソコンを使って勉強する、大人はここでスマホ教室とか出前講座をやってもらって、まさに多世代間の交流の場所にしたい。

・オンライン診療をできるように、公民館に来ればお医者さんに診てもらえるようにできないかとか、市役所に行かなくても公民館でもいろんな手続きができるようにならないかと考えている。

・市内に八十幾つの公民館があるが、各地域によって特色が違うのでその地域にあった活用ができるような場所に公民館を変えていこうと計画をしている。

・いろんなことをやりたいと思っているが、やはりそういったことを進めていく上では、市民の皆さんがどんなことを考えているのか、どんな要望があるのかを直接私も聞きたいという思いから、タウンミーティングや少人数の能美市カフェトークをやったり、いろんなところに出かけていたりしている。

○おわりに

・こんなことをしたほうがいいじゃないか、ということがあればまた教えていただければと思う。市の職員にも、コロナの感染が広がったことでこれまでやってきたことが大きく変わってきて、役に立たないこともあるので、もう一回現場に出て市民の皆さんの声を聞

いたり、直接見たり、経験したりして、今までの施策が本当にこのままでいいのか、もっと変えたほうがいいんじゃないか考えてほしいと言っている。現場に行って、直接いろいろな声を聞いたり、見たりすることを増やそうとやっている。

4. 閉会